

東京家政大家政 ○土居 則子
神野 節子

1. 本研究は、前報に引きつづき、新たに入手した市販防黴剤6種類についてその防黴効果をもたらせる基準を明らかにし、あわせてどの菌を供試菌として用いるのが適当であるか検討を試みた。

2. 供試皮革はクロムなめし中和直後の成牛甲皮を用い、供試菌としては J.I.S. 菌の2種のほかに皮革から分離した5種類の糸状菌を選んだ。防黴剤の加工処理方法は浸漬法により、防黴試験方法は J.I.S. 法によって行なった。

3. 市販防黴剤6種類について、各々の防黴効果をもたらせる基準を明らかにした。そのうちではハイニット LW にとりわけ強力な防黴効果が認められた。

本実験では供試菌として J.I.S. 菌2種のほかに皮革から分離した糸状菌5種類を選んで用いたが、混合孢子懸濁液として用いた場合、ある種の菌が早く生育してしまうと他の菌はおさえられてほとんど生育し得ない。従って、混合孢子懸濁液として用いるよりもむしろ皮革から直接分離したもっとも生育しやすい菌を選び、単一孢子懸濁液として用いるのが適当ではないかと考える。